JIPA + JIPAK Design Competition for STUDENTS 2023

Award Book

ツナグ＋DESIGN

JIPA + JIPAK

ツナグ
＋
DESIGN

日本インテリアプランナー協会 および 日本インテリアプランナー協会 関西は、その活動メッセージとして、インテリアデザインによって、様々な現象、事象、物、ことを融和的に繋いでいくことの可能性をひとつのテーマとしています。

この度、学生対象のインテリアコンペティションを開催し、広く学生の方々の英知を公募し、その先進的なアイデアを広く世界に「繋げて」いくことを企画しました。

JIPA + JIPAK 第5回 デザインコンペティション 2023 ビエンナーレ

「with Bicycle ―自転車のある空間―」

自転車は、環境にやさしいモビリティーであるとともに、健康づくりや人々の行動を広げ、地域とのふれあいなどを取り持つツールとして、世界中で見直されている。

また環境や渋滞対策の解決として、あるいは「密」を避ける交通手段として、人と街と自転車が共生する安全でやさしい都市環境の創出が求められている。

しかしながら巷で見かける乱雑に置かれた様相は、決して美しいとは言い難い。

自転車が映える魅力ある空間とは・・・。

スローダウンの時代に求められる新しい自転車のある空間を提案いただきたい。

共催

一般社団法人 日本インテリアプランナー協会
一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 関西

〒541-0052
大阪市中央区安土町1-7-13 トヤマビル本館 9F
TEL：06-6266-5735　FAX：06-6266-5745

総評

JIPA＋JIPAKデザインコンペティション2023ビエンナーレは学生へのインテリアプランナーの認知度向上と、建築やデザインを志す学生からの提案により、世代や社会をつなぐことを目的としてスタートしました。
第5回は大きく変化し続ける社会で、環境にやさしいモビリティーあるいは健康づくりや人々の行動を広げるツールとして、安全でやさしい都市環境の創出への可能性を見直されている自転車を題材として、時間や場所の大切さを問う「“with Bicycle”―自転車のある空間―」をテーマとしています。
課題では、立地も規模も自由とし、いかに「with Bicycle」という環境や行為の本質を解くかという命題を秘めることにしました。応募作品は都市から家具のスケールまで、具体的な場や形を示すもの、環境や社会問題・概念・行為と連動してあるいは価値の転換から解決を図ろうとするもの、あるいはそれらを併せ持つものなど、多種多様なまなざしから柔軟な思考による提案をいただき、若い世代の先鋭的な感性に改めて気付かされた次第です。また作品のプレゼンテーションとしては、BIMから手描きまで、その多様性と完成度には、目を見張るものがありました。評価の高かった作品は、その表現とコンセプトとが秀逸かつ絶妙で、見る人を魅了することに成功したと言えるでしょう。同時にオリジナリティ性の高さと社会へのメッセージ性が評価の分岐点になりました。やがてこれらのデザインにより営まれる行為や心情が、さらに昇華し社会的影響力を獲得していくことを願って止みません。
最後になりますが、このコンペティションには全国からの応募が寄せられました。最終的には高いレベルの作品が多く寄せられたことは情報の進化が伺い知れます。これらの作品から自転車との共存についての最適解をまとめ切るには至らないにしても、若い世代により競われた創作がここに集い、この応募作品の収録と作品展の開催ができることに、大いに喜びを感じています。

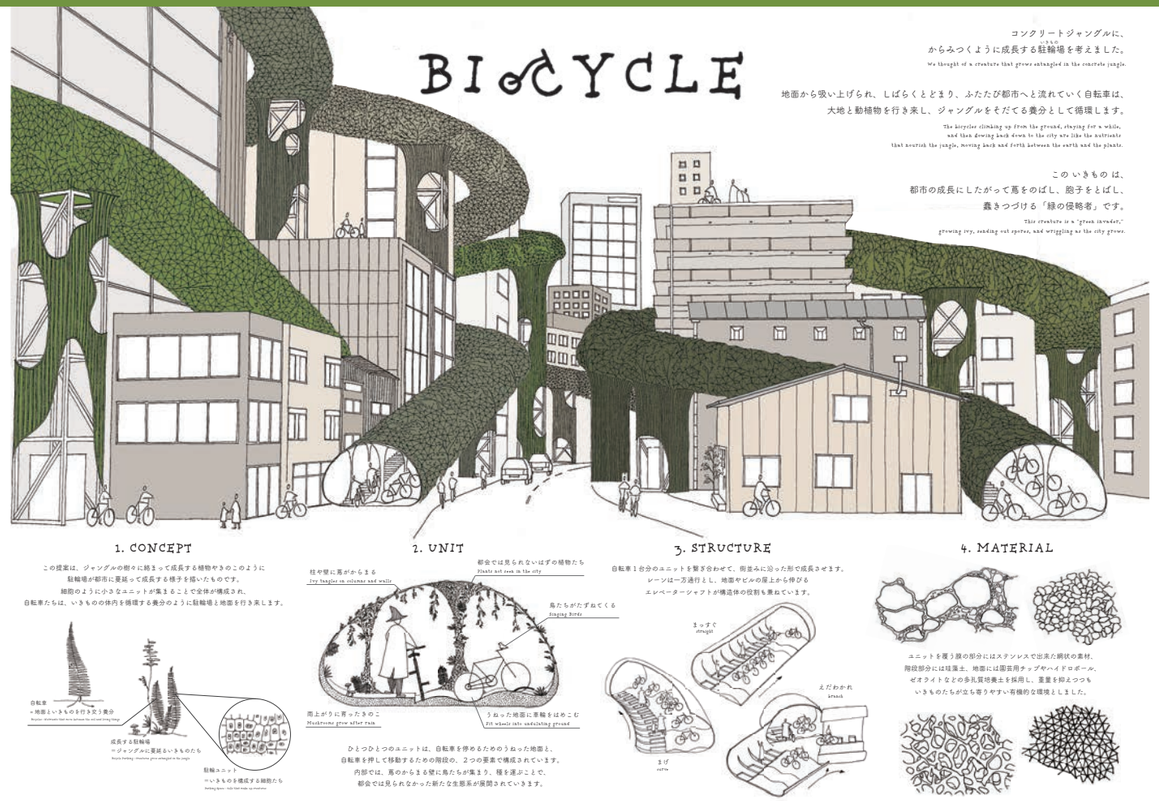
小梶 吉隆
一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 理事
一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 関西 会長

審査委員

審査委員長
・小梶 吉隆　(一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 関西 会長)
審査委員
・石津 勝　(大阪芸術大学 准教授)
・岩田 章吾　(武庫川女子大学 教授)
・岡本 清文　(近畿大学 教授)
・小川 千賀子　(株式会社 デザインクラブ 代表)
・角田 暁治　(京都工芸繊維大学 教授)
・加藤 精一　(一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 会長)
・川北 英　(京都建築大学校 校長)
・菅野 忠司　(株式会社 イリア 関西事務所 所長)
・佐熊 孝浩　(株式会社 総合資格 関西本部 本部長)
・立山 智佳子　(髙島屋スペースクリエイツ 株式会社 デザイン本部 フェロー)
・中村 俊郎　(イチマルヨンロク 代表)
・藤本 英子　(京都市立芸術大学 教授)

入賞作品リスト

最優秀賞	BIoCYCLE 小林 陸人 野上 乃愛	京都大学 京都大学大学院
優秀賞	BICYCLE LINE 小林 未侑	近畿大学
優秀賞	街中.たわわに実れ -街にとけ込む駐輪場- 宮嶋 大和	京都美術工芸大学
優秀賞	交差する橋で濤声を聴く。～しまなみ海道・橋上広場計画～ 山下 雄大・檜山 立樹	京都美術工芸大学
協賛企業賞	自転車で軌道を描く 上野 朝絵	帝塚山大学
協賛企業賞	Transition Rental Cycle -交錯するレンタサイクル- 浜 萌々子	近畿大学
協賛企業賞	bike-base 堤 伶央	京都美術工芸大学
佳作	B.B.D＝Bicycle Base development 杉本 雄大	京都美術工芸大学
佳作	彩る路地裏 下村 天音	大阪芸術大学
佳作	Urban Greengrocer 藤原 百花・橋本 悠里	畿央大学
佳作	自転車×マッチング×休憩 横井 亜衣・岩渕 桃葉・森下 菜々香・平尾 彩香	京都美術工芸大学
佳作	Cycle-through Library 髙橋 映花	近畿大学



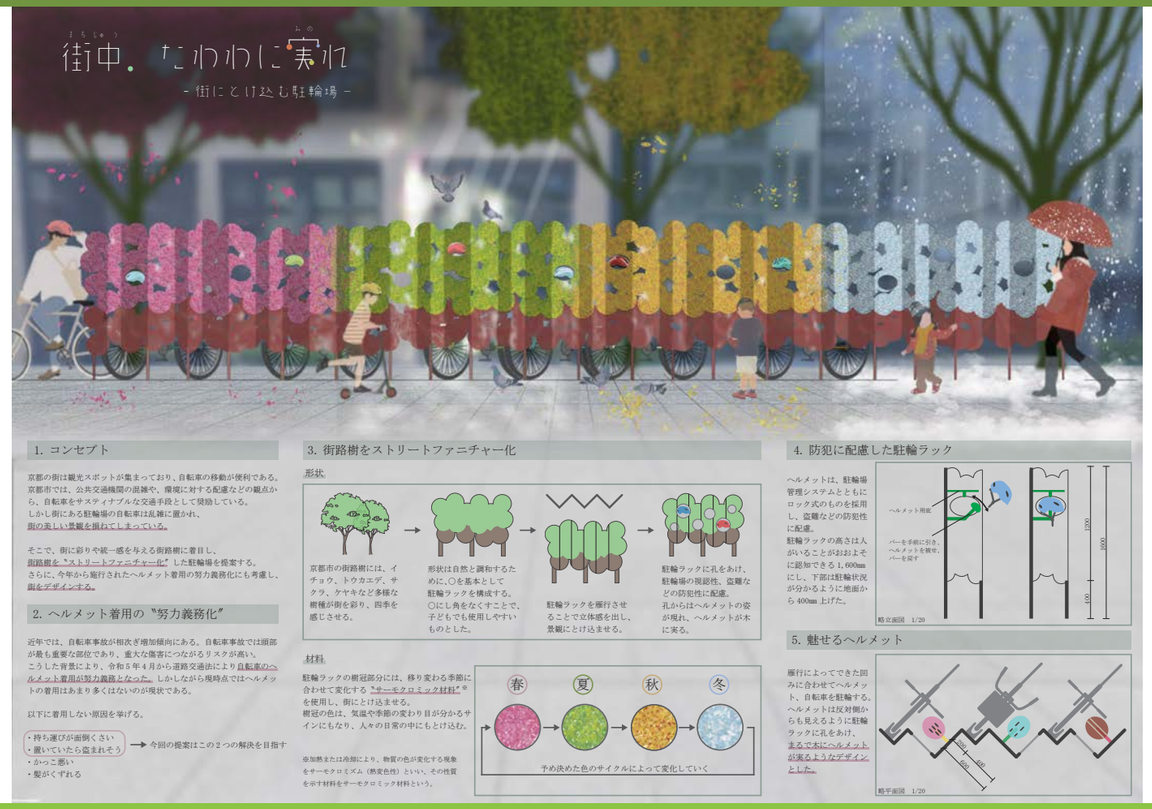
小林 陸人　京都大学　／　野上 乃愛　京都大学大学院

自転車は、利用者にとっては便利で快適な乗り物だが、歩行者にとっては時に危険でもある厄介者であり、駐輪放置されると街の景観やアメニティを阻害する。駐輪場所もあまり整えられていない。この便利さ・快適さ・楽しさと駐輪時の弊害・歩行者との共存という課題に対し、どうデザインで応えるかが今回のテーマである。
この作品は、駐輪場所を地面から解放しビル群に絡みつかせた緑のチューブとした。都市の風景を再構成しようとしているようにも見える。ビル群と緑の駐輪場が絡み合う風景は、すぐに実現は難しいものの新しい可能性を感じさせ、魅了される。
これを一台一台の駐輪ユニットをフレキシブルに組み立ててあたかも植物が茎を延ばすかのように造るという発想もよく合っている。住まいや活動場所が高密化・高層化すると移動手段は機械に頼らざるを得なくなるが、自転車で高層階までアクセスでき、自分の身近な場所に停めておけるならば、ますます自転車が好きになり、移動や街へ
出かける楽しさも増し、自由度も広がると思わせ、都市生活者を惹きつける心憎い案だと思う。　講評：審査委員　加藤 精一

小林 未侑　近畿大学

この作品を、しばらく眺めていると無人の自転車が等間隔に走っているように見えてくる。深夜だと、映画のナイトミュージアム（夜になると展示物が動き出す不思議な博物館 ）の如く、自転車が意思をもってレースをし始めるように見えてくるだろう。作者は「自転車」の美しい姿をそのままに、集団での空間を創りあげた。法律で課されている自転車の付置義務駐輪場は、「義務」であるため、なるべくコンパクトな「並列駐輪方式」を採用する。重なりあう自転車の姿は目も当てられず、普通はそのボリュームを隠そうとする。自転車の「縦列駐車方式」、確かにありそうだが見たことがない。集団でありながら個の美しさを保持できるこのBICYCLE LINEは目のつけどころが違う。一目見て気にいった。是非深夜の自転車無人レース場を見せてもらいたい。

講評：審査委員　菅野 忠司



宮嶋 大和　京都美術工芸大学

まず目を引いたのは、その鮮やかな色彩です。春夏秋冬をイメージした柔らかいシルエットの駐輪ラックの絵が飛び込んで来ました。季節の気温で可変するサーモクロミック材料を使用する、飽きの来ない変化を取り入れた素晴らしいアイデアです。またヘルメット着用の努力義務化という現実的な要件に対しても、木の実として捉え、デザインとして回答している点も高評価です。少し気になるとすれば、その透過性といったところでしょうか。商店の前であればファサードの視認や車道との安全性確保のために、もう少し開口穴を多く設けたりパンチングメタルを使用したり、背の低い人の頭が見える高さにしたり、連続する長さを分断したりと、立地によっては少しバリエーションが必要かもしれません。ただ、バス停や地下鉄入口などと関連づけしたデザインも考えられる発展性や可能性のある素晴らしいプランです。

講評：審査委員　石津 勝

優秀賞　交差する橋で濤声を聴く。～しまなみ海道・橋上広場計画～　ツナグ+DESIGN

山下 雄大・檜山 立樹　京都美術工芸大学

目に飛び込んでくると同時に、瀬戸内の風の声、濤の声、自転車の車輪が道を蹴る声の3重奏が全身を貫きました。
「自転車のある空間」を「声」で捉え「聴く」という体感に変えた作品として高く評価しました。
人間が生み出した移動手段である自転車は、もっともエコロジーな乗り物です。
その乗り物のためだけに瀬戸内に架けられた橋を駆け抜ける快感と、橋の途中に点在するポイントで風の音と濤の音を身体中で受け止める快感を得る空間は、「自転車のある空間」を超え、まさに「自転車でしか創れない空間」として息づいています。
瀬戸内海を味方に、自転車と共にある空間の魅力をもっと多くの人たちに伝えられる実現可能な素晴らしい作品です。

講評：審査委員　小川 千賀子

協賛企業賞　自転車で軌道を描く　ツナグ+DESIGN

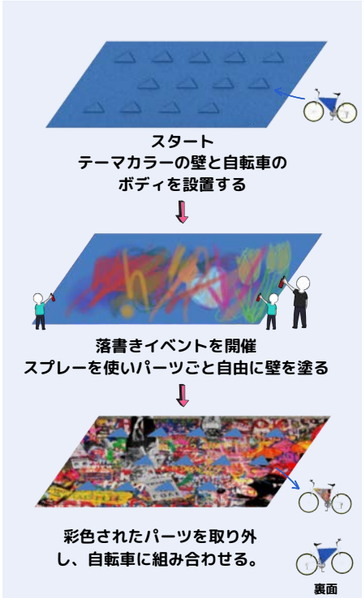
上野 朝絵　帝塚山大学

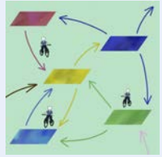
極めてシンプルではあるが、デザイン的にも機能的にも考えられたとても印象深い作品でした。時に自転車が無い空間が出来上がってしまうけれども、その姿もアート的だと思います。
自転車で走って初めて気づく水パレットやコンクリートキャンパスの意味、眺望の丘を含め、素材の違いを巧みに使い分けながら表現した「無」から「有」を生み出す手法にセンスを感じます。
「自転車のある空間」は発想を限定しがちですが、「自転車が生み出す空間」へ一歩発想を拡げた事が高い評価をえたポイントだと思います。

講評：審査委員　立山 智佳子

Transition Rental Cycle
-交錯するレンタサイクル-

自転車を取り巻く問題のひとつに、放置自転車が挙げられます。それを解決しうるレンタサイクルの、新しい在り方を考えました。現在あるレンタサイクルは、全ての場所で自転車もポートも同一のデザインになっています。例えば大阪に設置されていた自転車が旅をして京都にたどり着いても、ポートの表情は変わりません。そこで、レンタサイクルが利用され場所を移すごとにポートの表情がころころと変わり、みんなで楽しく利用できるようなシステムを考えました。





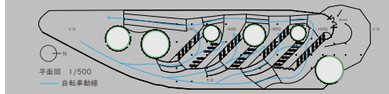
浜 萌々子　近畿大学

レンタルサイクルはシェアサービスとして大きく進化した。以前のように、借りた場所に返すのではなく、ポートからポートへと必要に応じて利用できるようになった。意匠が統一されたシャアサイクルが各ポートに並ぶ姿は、洗練されたシェアエコノミーの象徴ともいえる。この案は、この状況を反転させ、各シェアサイクルに独自の意匠を纏わせるとともに、それらがポート間を移動し続ける状況によって、ポート自体もその時々に独自の意匠を有するようになるアイデアである。着眼点は素晴らしい。ただイメージ図では、もともとの落書きペイントがポートの印象を作っていた。この案の要であるシェアサイクルが運んでくるだろう様々な意匠が重なり合って、その場、その時限りの独自の意匠が現れるポートの風景が示されればさらに素晴らしかったと思う。

講評：審査委員　岩田 章吾

自転車滑走路

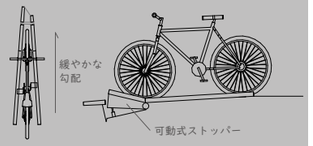
駐輪場に基地や空母などにある滑走路の要素を取り入れ、自転車の押し引きをせずに駐輪することができる自転車動線を計画した。奥へ進めば進むほどGLからの高低差を大きくすることによりどこに駐輪するかによって変わる空間を楽しめる。駐輪に楽しさを追求し、自転車一台一台のスペースを広く取ることで、降りて止める駐輪をバイクのように止めて降りる駐輪に変えた。



暗く隅に追いやられがちな駐輪場の自転車を主役にしつつ、敷地の既存樹木を活かすためにいくつかの樹木ケースをカーテンウォールでつくり、木漏れ日が駐輪空間に差し込むよう計画した。夜間には散りばめた樹木がライトアップされることで明りとなり駐輪することができる。東本願寺御影堂門のライトアップを背景に一つの広場として楽しむこともできる。

スマートな駐輪

一般的な前輪を挟むスタンドではなく、緩く勾配をつけ可動式ストッパーによって車体が止まるスタンドにすることで、近年増加している太いタイヤの自転車でも駐輪することができる。可動式ストッパーにすることで漕ぎだす際もスムーズに動くことができる。多様なスタンドに考慮し、自転車後輪部分にかけて広く台形になっている。



堤 伶央　京都美術工芸大学

駐輪場の提案はいくつもあったが、この案が最も建築的提案であったように思う。歴史的建築近傍であることを配慮し、大地を緩やかに持ち上げ、そこに自転車を空母の甲板上の戦闘機のように並べるというアイデアはとてもユニークである。甲板が既存樹木を避けている点も評価できる。作者のデザインセンスが光る美しい提案である。その一方で、案の可能性に対して、提案や表現のささやかさが気になった。木陰の下で自転車と人が休憩している場を想像してデザインしたとあるが、どのような場を提供するのかを示してほしかった。床下のガラススクリーンの内部の空間が、この観光地にどのような休憩の場を提供できるのか？また、この持ち上げられた大地から、どのような風景が見えるのか？そういったことの表現があればより力強い案になったのではと思う。

講評：審査委員　岩田 章吾

佳作　B.B.D＝Bicycle Base development

ツナグ＋DESIGN

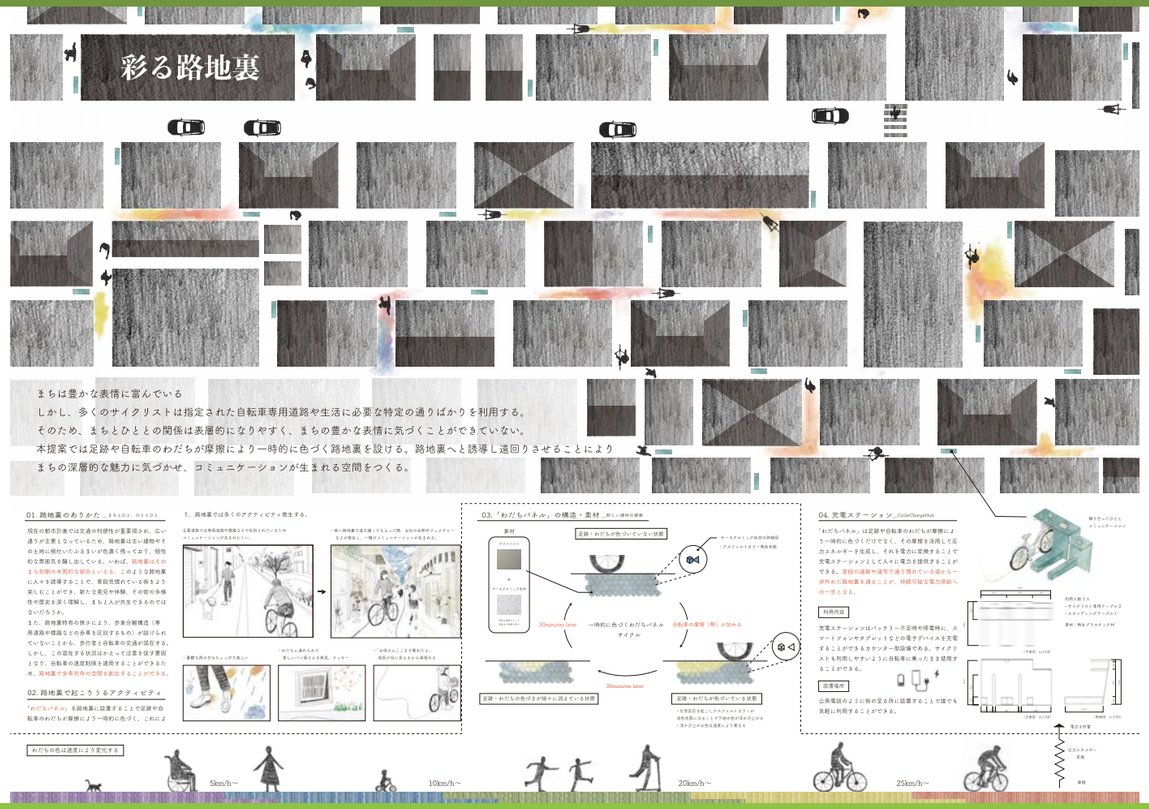
杉本 雄大　京都美術工芸大学

公園内の移動や各施設間の移動・アクセスの不自由さ、大変さという、現代の都市公園の持つ課題に対し、自転車利用という手段を用いて真正面から取り組んだところに好感を持った。提案された自転車ベースは、特別に凝ったところはないがよくまとまっており、社会性を備えた実現性が高い提案となっている。単なる駐輪スペースではなく、道路側から公園内への視線のヌケがあり、樹木を取り込み公園との連続性をつくろうとしているところなど有効な工夫が見られる。欲を言えば、この問題を考えるとき、自転車ベース等の拠点と合わせ、歩行者や自動車との共存の仕掛けをいかに自然に、ストレスなくつくるかが課題で、これを動線のネットワークシステムや、結節点のしつらえ等として提案されると、さらに現実味のある良い提案になると思う。

講評：審査委員　加藤 精一

佳作　彩る路地裏

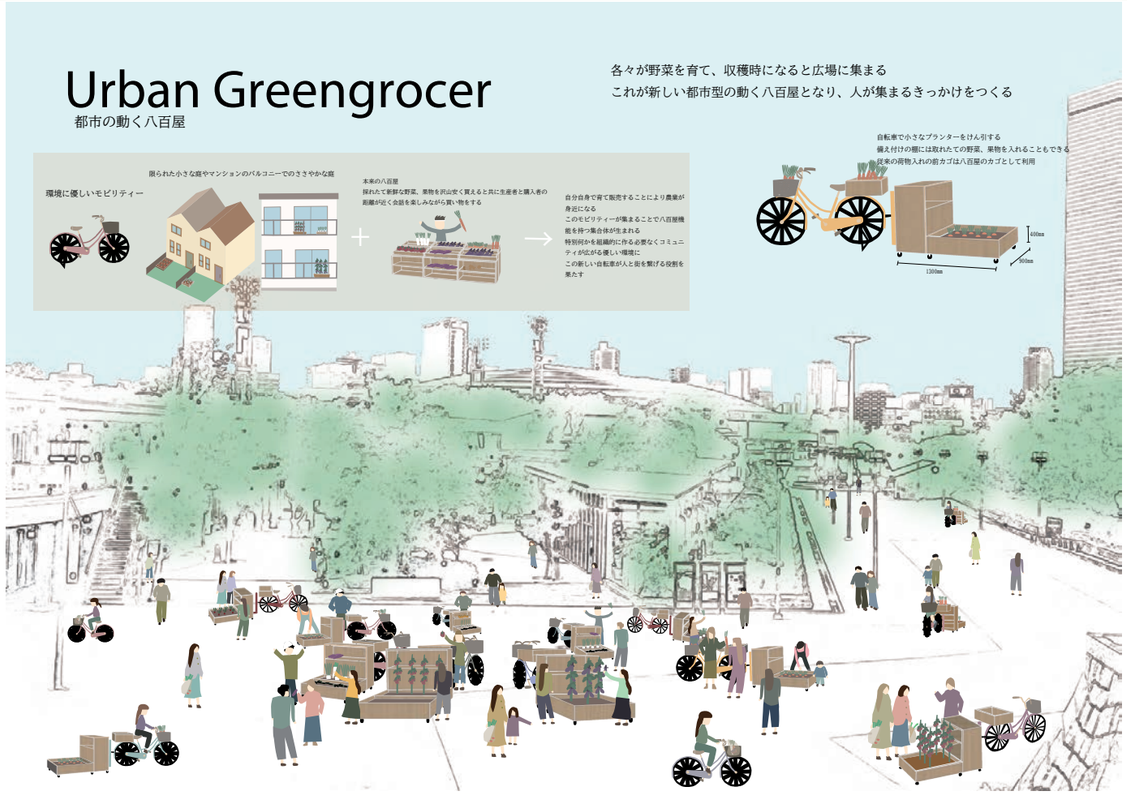
ツナグ＋DESIGN



下村 天音　大阪芸術大学

この提案の面白さは、自転車を歩行動作と同じレベルに位置づけたところかもしれない。自動車でもバイクでもなく、肉体運動としての道具という認識である。そこには、ぶらぶら歩きや振り向いたり立ち止まったりという歩行の楽しさを、動作を見える化する装置でより一層楽しさを演出しているアイデアは面白い。子供のころの足跡遊びの様ななつかしさがよみがえってくる。今回は路地の空間での提案であるが、時間限定の（技術的に可能かわからないが）歩行者天国などにも導入しても面白いのではないか。一方、充電装置への提案があったが、歩行者と自転車の共存のためのスペースあるいは装置の提案の方がよかったのではないか。

講評：審査委員　川北 英



藤原 百花・橋本 悠里　畿央大学

このプランの大きな特徴として、座って待つという行為だけでなくて、歩いて待つことも待つという行為のひとつであるということ、歩くという行為が多くの出会いを生み出す可能性を拡げるということ、これらの点に気づかされました。そしてその出会いは、通常では人と人を考えますが、人だけに限定しないで、人と動植物も交えての多様な出会いをも含むということであると、そのような新鮮な観点が良かったです。プランに描かれた自然の中の構築物は、新築であり新しくて目立ち過ぎているところが、少し違和感を伴った印象として感じましたが、今後、経年変化して木組みが古色になり、苔が生えたり植物の蔓が巻いたり、自然環境と馴染み同化しつつ、等々力渓谷の美しい景観の一部となっていくことが想像できます。

講評：審査委員　岡本 清文

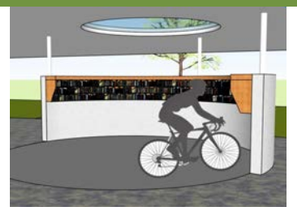
横井 亜衣・岩渕 桃葉・森下 菜々香・平尾 彩香　京都美術工芸大学

テーマ設定は“地方駅の駐車場”。がらがらの駐車場となかなか来ない列車という切実な状況設定がユニークで興味を惹かれる。一見さびれた活気のない空間を逆手にとって、都会では実現できない魅力付けをしているところは、なるほどとうなづける。コロナ時代に普及した“リモートオフィス”にも水平展開できそうで、過疎化に悩む地方都市の計画提案に有効かもしれない。駅前の風景としても変化があって面白い。安全性や管理の問題、法的処理などいくつかの問題点はあるもののこの手法は駅前開発の一つのアイデアといえそうである。シャッター街となった商店街の活性化などもこのアイデアで一度検討してはどうか。

講評：審査委員　小川 千賀子

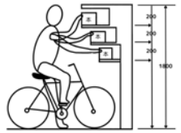
Cycle-through Library

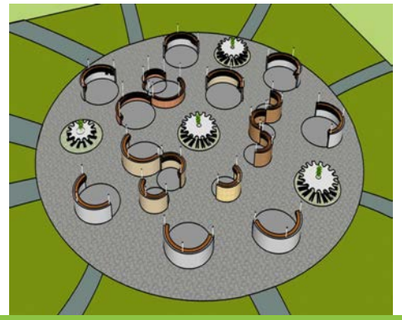
莫大な撤去・取り締まり費用がかかる放置自転車や無断駐輪の現状。
そこで自転車に乗ったまま施設利用ができる図書館を考えることで、放置や盗難などの問題を解決する。
本の森を自由に駆け巡り、好きな場所でサドルを椅子にして読む。
従来の閉鎖された静かな図書空間から、風と自転車が通り抜ける新しい空間へと変貌させる。



本棚下に前輪を入れるスペースがあるため、本棚まで近寄ることができる。

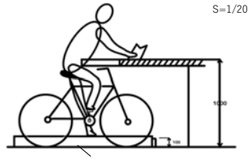
S=1/30





テーブルに自転車を駐輪し、サドルを椅子にすることで乗ったまま読書ができる。

S=1/20



パーキングガイド兼フットレスト

髙橋 映花　近畿大学

自転車に乗ったまま施設利用ができるという、おそらく応募者が一度は脳裏をかすめたであろうアイデアが提示されている。この案は単純かつ合理的で、新しいライフスタイルを提案しながら巧みな造形力により構成されているところがとても魅力的だ。本の森を自由に駆け巡り、開放された図書館で自転車を乗り付けたまま大好きな本を手に取る、さらに机に移動してサドルにかけたまま時間を費やす、という夢のような一時が描かれている。おだやかな風が通り抜け・・・とイメージを膨らましながら。ふと文頭に戻ると放置自転車や無断駐輪問題がこのLibraryにより解決されるとされている。できればその因果関係や様々な多様性が伴うと、途切れることのない夢にもう一度戻れるかもしれない。

講評：審査委員　小梶 吉隆

応募点数：49点
登録学生数：54名
選考作品数：34点
入賞点数：12点

JIPA + JIPAK デザイン
コンペティション 2023
ツナグ＋DESIGN
第5回 応募作品展
会場：京都美術工芸大学

協賛企業

株式会社 総合資格 http://www.sogoshikaku.co.jp	髙島屋スペースクリエイツ 株式会社 http://www.ts-create.jp	東リ 株式会社 https://www.toli.co.jp
関ヶ原石材 株式会社 http://www.sekistone.com	株式会社 デザインクラブ http://www.designclub.co.jp	コクヨ 株式会社 ワークプレイス事業本部 https://www.kokuyo.co.jp
株式会社 オカムラ http://www.okamura.co.jp	株式会社 カッシーナ・イクスシー https://www.cassina-ixc.jp	有限会社 ハブ硝子 http://glasmond.jp
アイカ工業 株式会社 https://www.aica.co.jp	株式会社 カイダーベースボード工業 https://www.kaider.co.jp	有限会社 画箋堂 http://www.gwasendo.com
TOTO 株式会社 https://jp.toto.com	大光電機 株式会社 https://www.lighting-daiko.co.jp	株式会社 イトーキ https://www.itoki.jp
株式会社 ユニオン https://www.artunion.co.jp	株式会社 インターオフィス https://www.interoffice.co.jp	ルノン 株式会社 https://ssl.runon.co.jp

ツナグ＋DESIGN

後援 (順不同)

公益財団法人 建築技術教育普及センター
公益社団法人 日本建築士会連合会
公益社団法人 日本建築家協会
一般社団法人 住宅リフォーム推進協議会
一般社団法人 日本商環境デザイン協会
一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
一般社団法人 日本建築学会
一般社団法人 日本建築設計学会
日本インテリア学会
公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会
一般社団法人 日本空間デザイン協会
公益社団法人 インテリア産業協会
一般社団法人 日本インテリア協会
公益社団法人 日本サインデザイン協会
公益社団法人 日本インダストリアルデザイン協会
公益社団法人 商業施設技術団体連合会
一般社団法人 日本インテリア設計士協会
一般社団法人 日本住宅リフォーム産業協会
一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会
一般社団法人 日本インテリアアテンダント協会
一般社団法人 日本建築美術工芸協会
一般社団法人 日本フリーランスインテリアコーディネーター協会
日本木材青荘年団体連合会

Info

JIPAK > コンペティション
http://www.kipa.or.jp/competition/

学生デザインコンペティション部会
実行委員長：馮 植
メンバー：神谷 剛、川北 英、児玉 憲一、
須摩淵 真範、矢野 梨花子

Graphic：Rikako Yano
Award Book：1046